

AMBASSADE  
DE LA  
REPUBLIQUE FRANCAISE  
AU  
JAPON

Tokyo, le 14 Juin 1941

n° 52

Monsieur le Ministre,

Pour faire suite à ma lettre n°46 du 4 de ce mois,  
j'ai l'honneur de faire savoir à Votre Excellence que  
les dégâts occasionnés par le bombardement de l'aviation  
japonaise aux immeubles du Consulat de France à Tchungking  
s'élèvent à la somme de deux cent mille francs./.

Veillez agréer, Monsieur le Ministre, les as-  
surances de ma très haute considération,

Signé: Charles Arsène Henry

à Son Excellence

Monsieur Yosuke Matsuoka

Ministre des Affaires Etrangères

etc, etc, etc,

TOKYO



閱

務

中

中村

卷三〇二天 共二

歐二普通合第二五一八號

昭和十六年六月二十七日

陸軍次官殿

在重慶佛國領事館爆擊ノ件

本件ニ關スル本月十七日附歐二普通合第二三一九號拙信ニ關聯シ  
 今般在京佛國大使ヨリ更ニ別紙書翰寫（假譯添附）ノ通申越アリ  
 タルニ付テハ委曲右ニテ御知悉相成度此段申進ス  
 本信送付先 陸軍、海軍各次官

外務次官

陸軍省 16.6.29  
 外務省 16.6.29  
 陸軍省 16.6.31  
 軍務課

添附

陸軍省 外務省

55

623

外務省



寫

昭和十六年六月二十三日附在京佛國大使來翰  
第五三號假譯

以書翰啓上致候陳者本月十四日附拙翰第五二號ニ關聯シ本使ハ同翰  
中ニ記載セラレ居ル佛貨貳拾萬法ノ金額ハ傳達ノ誤謬ニ基因スルモ  
ノナル旨閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候實際ニ於テハ在重慶佛國領  
事館建物ノ蒙リタル損害ハ法幣貳拾萬元ニ上リヲリ候  
本使ハ本件損害明細報告書ヲ當方ニ接到次第必ス閣下ニ送達可致候  
右申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候  
敬具

一九四一年六月二十三日

佛國特命全權大使

「シヤルル、アルセーヌ、アンリー」

外務大臣松岡洋右閣下



AMBASSADE  
DE LA  
REPUBLIQUE FRANCAISE  
AU  
JAPON

Tokyo, le 23 Juin 1941.

N° 53

Monsieur le Ministre,

Me référant à ma lettre n° 52 du 14 de ce mois, j'ai l'honneur de faire connaître à Votre Excellence que le chiffre de deux cent mille francs qui y est indiqué est dû à une erreur de transmission. Les dégâts occasionnés aux immeubles du Consulat de France à Tchongking s'élèvent en réalité à la somme de Deux cent mille Dollars nationaux chinois.

Je ne manquerai pas de faire tenir à Votre Excellence, dès qu'il me sera parvenu, le rapport établissant le détail des dommages dont il s'agit.

Veillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances de ma très haute considération,

Signé: Charles Arsène Henry.

à Son Excellence  
Monsieur Yosuke Matsuoka  
Ministre des Affaires Etrangères  
etc, etc, etc,  
Tokyo



第一一〇號

三年  
決裁指定  
局長  
委任  
決行指定

大臣 委		主任 務 局 課		受 領 番 號		政務大臣 參與官 回 拾年保 決裁 前連帶 後課名 主計、銃砲、軍事 決行(決裁)後 回覽課名
大臣 委		主任 務 局 課		受 領 番 號		
昭 和 年 月 日	昭 和 年 月 日	昭 和 年 月 日	昭 和 年 月 日	第 三 二 七 九 號	會 計 檢 查 院 會 計 實 地 檢 查 二 關 ス ル 件	起元廳(課)名 會 計 檢 查 院
昭 和 年 月 日	昭 和 年 月 日	昭 和 年 月 日	昭 和 年 月 日	第 三 二 七 九 號	會 計 檢 查 院 會 計 實 地 檢 查 二 關 ス ル 件	
局長		局長		政務 次官		參與官
局長		局長		政務 次官		
局長		局長		高級 副官		書記官
局長		局長		高級 副官		
局長		局長		主務 副官		審 案 筆 記 者
局長		局長		主務 副官		
局長		局長		主務 課員		
局長		局長		主務 課員		

陸軍省  
16.6.28  
軍事課



副官ヨリ陸軍兵務本部總務部長へ通牒

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通會計検査院長ヨリ通牒アリタルニ付承知相成度依命通牒ス

追テ提出書類、日割豫定表等検査施行ノ細部ニ就テハ検査官ヨリ陸軍省經理局監査課經由通牒セラレ、ニ付申添フ

陸普第四九三六號

昭和拾六年七月壹日







普第二九〇號

陸軍省 陸軍部 第三三三九



昭和十六年六月廿四日

會計検査院長 岡 今朝雄



陸軍大臣 東 訥條 英 機 殿

通知

貴省所管會計實地検査トシテ左ノ通出張ヲ命シ候

出張官

検査官 小林 義 男

副検査官 中川 薰

同 山崎 高





檢査箇所

一、陸軍兵器本部

以上

出張官

検査官 小林 義男

検査箇所

一、東京第二陸軍造兵廠

一、同 岩鼻製造所

一、同 多摩製造所

以上





會計検査院

出張官

副検査官 中川 薫

検査箇所

一、東京第一陸軍造兵廠（福岡工場、大宮工場ヲ含ム）

以上

出張官

副検査官 山崎 高

検査箇所

一、相模陸軍造兵廠

一、東京陸軍兵器補給廠

以上



政務官 書記官 回付(決行前)

陸軍省

(決行後)

審案 筆記者

陸

軍

軍

(裁決)行決 覽回後	連 帶		決行指定	局長 委任	決裁指定	三年	保存期限
	局長(部)局	局長(部)局					
			大臣	委員	件名	受領番號	
				委員	政務次官	壹第三二〇三號	
			局長	主任	官副級高	起元廳(課名)	
	衣糧	交通	局長	主任	官與參	文部省	
	三宅	三宅	局長	主任	書記官		
			局長	主任	書記官		
			房官臣大	課局務主	出提	昭和三十九年七月貳日	
			了結	領受	領受	昭和三十九年七月貳日	
			昭和三十九年七月貳日	昭和三十九年七月貳日	昭和三十九年七月貳日	昭和三十九年七月貳日	

月蝕觀測隊ニ對シ便宜供與方件

軍務課第五九五號



(陸普)

次官ヨリ支那派遣軍總參謀長第十一軍

參謀長宛通牒

(航空托送)

今般文部省ニ於テ九月二十日ノ旨既蝕觀測ノ目的ヲ以テ東京・京都兩帝國大學及電波物理研究會ヨリ觀測隊ヲ中支方面ニ派遣シ別紙要項ニ基キ觀測實施セシムル事定ナルニ付貴地出向ノ節ハ輸送・給與等ニ尙シ可然便宜供與方配慮相煩シ度追テ輸送・給與等ノ程度ハ官等ニ應シ軍並トシ經費ハ觀測隊ニ於テ支辨致ス等ナルニ付承知相成度申添フ

陸普第五〇二九號

昭和拾六年七月參日

通牒先 總軍、十一軍、



陸軍

次官ヨリ文部次官宛回答

六月十六日附發專一二五號ヲ以テ依頼越シアリ  
タル首題ノ件ニ関シテハ關係現地軍ニ対シテ  
配致シ置キタルニ付承知相成度及回答候也

陸普第五〇二九號

昭和拾六年七月參日





日蝕觀測 = 關スル計畫要項 (昭和16年)

東京、京都帝國大學							電波物理研究會						
人員	教授	助教授	講師	助手	其他	計	技師	臨時委員	技手	囑託	計	合計	
	東京	1 (兼任)	1	0	1	2	5	1	1	3	8	13	
	京都	1 (兼任)	0	1	1	2	5						
計	2	1	1	2	4	10	1	1	3	8	13	23	
場所	中支那或寧附近、賀勝橋駅近傍						漢口開式路2号						
日程及行	出發 (東京、京都ヨリ) 8月上旬						第1班 (技師1、技手3、囑託1、臨時委員1) 電離層班			第2班 (囑託3) 電波傳播班			
	到着 (現地) 8月20日迄						(東京) 7月20日			(東京) 8月15日			
	機械設置並調節 9月20日迄						(漢口) 8月5日			(漢口) 9月1日			
	觀測 9月21日						8月30日迄			9月20日迄			
							9月21日			9月21日			



文部省專門學務科學課

動	機械解体整理 出發(現地) 到着(東京、京都=)	9月末頃迄 9月末頃 10月中旬	10月下旬迄 (漢口) 10月25日 (東京) 11月1日	10月上旬迄 (漢口) 10月5日 (東京) 10月20日																																																											
觀測員官職氏名	<table border="0"> <tr> <td>東京帝大</td> <td>教授(新任) 田中</td> <td>務純</td> </tr> <tr> <td></td> <td>助教授 小穴</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>助手 近藤</td> <td>研二</td> </tr> <tr> <td></td> <td>雇員 島地</td> <td>武石</td> </tr> <tr> <td></td> <td>同 人選中</td> <td></td> </tr> <tr> <td>京都帝大</td> <td>教授(新任) 上田</td> <td>穰夫</td> </tr> <tr> <td></td> <td>講師 渡邊</td> <td>敏次</td> </tr> <tr> <td></td> <td>助手 藤波</td> <td>重三</td> </tr> <tr> <td></td> <td>雇員 柴田</td> <td>通三</td> </tr> <tr> <td></td> <td>同 磯田</td> <td>良一</td> </tr> </table>	東京帝大	教授(新任) 田中	務純		助教授 小穴			助手 近藤	研二		雇員 島地	武石		同 人選中		京都帝大	教授(新任) 上田	穰夫		講師 渡邊	敏次		助手 藤波	重三		雇員 柴田	通三		同 磯田	良一	<table border="0"> <tr> <td>技師</td> <td>青野 雄一郎</td> <td>人選中</td> </tr> <tr> <td>臨時委員</td> <td>千田 勘太郎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>技手</td> <td>中野 達一</td> <td></td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>安住 忠一</td> <td></td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>人選中</td> <td></td> </tr> <tr> <td>囑託</td> <td>関 須磨男</td> <td></td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>三井 康雄</td> <td></td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>有馬 安春</td> <td></td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>野口 佐久良</td> <td></td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>人選中</td> <td></td> </tr> </table>	技師	青野 雄一郎	人選中	臨時委員	千田 勘太郎		技手	中野 達一		同	安住 忠一		同	人選中		囑託	関 須磨男		同	三井 康雄		同	有馬 安春		同	野口 佐久良		同	人選中		
東京帝大	教授(新任) 田中	務純																																																													
	助教授 小穴																																																														
	助手 近藤	研二																																																													
	雇員 島地	武石																																																													
	同 人選中																																																														
京都帝大	教授(新任) 上田	穰夫																																																													
	講師 渡邊	敏次																																																													
	助手 藤波	重三																																																													
	雇員 柴田	通三																																																													
	同 磯田	良一																																																													
技師	青野 雄一郎	人選中																																																													
臨時委員	千田 勘太郎																																																														
技手	中野 達一																																																														
同	安住 忠一																																																														
同	人選中																																																														
囑託	関 須磨男																																																														
同	三井 康雄																																																														
同	有馬 安春																																																														
同	野口 佐久良																																																														
同	人選中																																																														
備考	東京、京都両帝國大學觀測隊ハ同一時期、同一場所ニテ觀測ヲ行ヒ行動ヲ共ニスル予定		第1班ハ9月1日ヨリ電離層ニ関スル觀測ヲ行フ。10月25日以後技手1名、囑託2名残留ス。上海臨時委員、囑託中1名ハ上海ニ勤務ニシテ漢口ニテ合流ス。																																																												



本控

文部省

陸軍次官 木村 兵太郎 殿

日蝕觀測ニ關スル件

今般東京、京都兩帝國大學及電波物理研究會ヨリ九月二十一日ノ  
皆既日蝕觀測ノ爲觀測隊ヲ中文ニ派遣シ別紙要項ニ依リ觀測ヲ實  
施スベキ處之ガ實施ニ當リ器材、輸送、現地ニ於ケル食糧等ニ付  
何分ノ便宜供與方ニ關シ貴省ノ御高配ヲ得度付テハ右御諒承ノ上  
何分ノ御取計相煩度此段及御依頼

三

三

清

寺澤の佐

終

陸軍省 第三三三號

陸軍次官 田中

昭和十六年六月二十日  
陸軍省 大臣 官

陸軍省 16.6.21  
軍務課

陸軍省 16.6.26  
第90號  
器材課

陸軍省 16.6.25  
器材課

陸軍省 器材課

宿營法 養ニ関スル具體的的希望  
兼知照  
後 金ア私ツヤ  
不控保

三



發專一二五號

昭和十六年六月十六日

陸軍省 文部省 第三〇三號

昭和十六年六月二十日  
陸軍省 文部省 大臣 官印

陸軍省 16.6.21  
軍務課

陸軍省 16.6.26  
第30號 器材課

陸軍省 16.6.25  
3114  
器材課

陸軍次官 木村 兵太郎 殿

文部次官 菊池 豐三郎

日蝕觀測ニ關スル件

今般東京、京都兩帝國大學及電波物理研究會ヨリ九月二十一日ノ  
皆既日蝕觀測ノ爲觀測隊ヲ中支ニ派遣シ別紙要項ニ依リ觀測ヲ實  
施スベキ處之ガ實施ニ當リ器材、輸送、現地ニ於ケル食糧等ニ付  
何分ノ便宜供與方ニ關シ貴省ノ御高配ヲ得度付テハ右御諒承ノ上  
何分ノ御取計相煩度此段及御依頼

文部省 陸軍省

三三

三

清

寺澤の佐

陸軍省

宿營 兼 後



大正十四年七月一日 日本帝國政府

卷

三二〇三

昭和十六年七月一日



文部省專門學務局長 永井

陸軍次官 木村 兵太郎 殿

日蝕觀測ニ關スル件

去ル六月十六日發專一二五號ヲ以テ東京、京都兩帝國大學及電波物理  
研究會ノ派遣ニ關シ御依頼致シタル處尙東北帝國大學ノ日蝕觀測派遣  
ニ關シ觀測員教授中村左衛門太郎ハ陸軍氣象部ノ囑託ニ囑託セラレタ  
ルニ付爲念御報告致候



主務課  
回覽課

馬場 記回覽中





陸軍省

陸軍次官殿

文部省專門學務局長



文 部 省



秘

軍務

源

七月五日

第一三三號

陸軍

第三三五號

昭和十六年六月十六日  
陸軍 陸軍次官

通五祕合第二四九一號

昭和十六年六月二十六日

陸軍次官殿

外務次官

陸軍省  
16.6.27  
1015  
軍務課

陸軍省  
16.6.30  
第33  
燃料課

外務省

米國ノ石油輸出許可制ニ關スル件

本件ニ關シ今般在米野村大使ヨリ別紙寫ノ通通報アリタルニ付御  
参考迄右茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍、海軍、大藏、商工各次官、企畫院次長

外務省



# 高

六月二十四日着在米野村大使發松岡外務大臣  
宛電報寫

石油輸出許可制施行ノ件ニ關シ

本月二十日大統領聲明及國務省發表ニ依ル石油製品ノ輸出許可制ノ施行竝ニ英帝國埃及及「アイルランド」及米洲諸國ヲ除ク一切ノ國家ニ對スル東岸諸港ヨリノ石油輸出禁止令ノ要點ハ

(イ) 石油製品ノ全般ニ付輸出許可制ヲ適用シタル事

(ロ) 東岸諸港ヨリノ英帝國「アイルランド」埃及向石油製品輸出ニ對スル制限輸出許可證ヲ發行シタルコト

(ハ) 東岸諸港ヨリノ中南米諸國向輸出ニ本年七月三十日迄有效ナル一般の許可證ヲ發給シタルコト

(ニ) 大西洋岸ヲ除ク一切ノ諸港（墨西哥灣及太平洋岸）ヨリノ外國（日本及蘇聯ヲ含ム）向輸出ニ付一般の許可證ヲ發給シタルコトニ在リ



之ニ依リ英帝國埃及「アイルランド」米洲諸國ヲ除ク日本其ノ他ノ  
國ニ對シテハ東岸ヨリノ石油製品ノ輸出ハ禁止セラレ一般的許可證  
ニ依リ墨西哥灣及太平洋岸ヨリ積出ヲ爲シ得ルコトナレリ尤モ米  
政府ハ規定上ハ何時ニテモ右許可證ノ撤廢ニ依リ對日輸出ヲ阻止シ  
得ルモノナリ



秘

卷三三五

通五祕合第二五二四號

昭和十六年六月廿八日

陸軍次官殿

米國ノ石油輸出許可制ニ關スル件

本件ニ關シ本月二十六日附通五祕合第二四九一號往信ヲ以テ申進置タル處今般更ニ在米野村大使ヨリ別紙寫ノ通通報アリタルニ付右茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍省、海軍省、大藏省、商工省、企畫院

外務次官

陸軍省 昭和 16.6.29

陸軍省 16.6.30 10/6 軍務課 別紙添付

陸軍省 16.7.2 第3 燃料

外務省 陸軍省

外務省



寫

六月二十五日着

在米野村大使發松岡外務大臣宛電報寫

現行輸出許可制適用追加品目本月二十四日附官報ヲ以テ公布セラレ  
二十一日ヨリ效力發生スルコトナレリ右ニ依リ輸出許可制ノ適用  
ヲ受クル石油關係品目左ノ通り

- (1) Crude oils
- (2) Natural gasoline
- (3) Motor fuels
  - a. Aviation motor fuels
  - b. Other motor fuel and gasoline
  - c. Blending agents (of petroleum origin)
- (4) Tetraethyl lead
- (5) Naphttha, mineral spirits, solvents tractor fuels, and other  
light products
- (6) Kerosene

外務省



- (7) Gas oil and distillate fuel oil
- (8) Residual fuel oil
- (9) Lubricants
  - a. Aviation lubricating oils
  - b. Medium viscosity index grade
  - c. Other motor oil not conforming to above specifications for aviation lubricating oil
  - d. Other lubricating oils
  - e. Lubricating greases
- (10) Liquefied petroleum gases
- (11) Paraffin wax, refined and unrefined
- (12) Petroleum asphalt
- (13) Petroleum coke
- (14) Other petroleum products.

(日本標準規格 B5)



第一四一號

七月五日

軍務  
為内  
我軍

秘

閱

通五祕合第二五〇九號

昭和十六年六月二十七日

陸軍省  
第三三四五號

陸軍省

陸軍次官殿

伯國產軍需物資輸出禁止ニ關スル件

高  
本件ニ關シ今般在伯國石射大使ヨリ別紙寫ノ通り電報越タルニ付  
茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍省、海軍省、企畫院、拓務省、大藏省、貿易

局

外務次官

外務省  
次官

陸軍省  
16.6.20  
陸軍省  
陸軍省

陸軍省  
16.6.28  
1006  
軍務課

別紙添付

陸軍省  
16.7.2  
102  
戰備課

外務省





六月二十二日着

松岡外務大臣宛在伯國石射大使發電報寫

「アラニヤ」當國外相ハ「バラグアイ」外務大臣來伯ノ爲多忙ヲ極  
メ本二十一日ニ至リ漸ク會談スルヲ得タリ本使ヨリ伯國ノ輸出許可  
制度ハ米國品ニ再輸出防止ヲ目的トスル以外ニ他意ナシトノ貴大臣  
ノ御説明ニ依リ日本政府ハ樂觀シ居タルニ「ダイヤモンド」其ノ他  
ノ伯國產物資ノ米國以外ヘノ輸出ヲ今回突如トシテ差止メラレタル  
ハ我方ノ了解ニ苦シムノミナラス日伯兩國ノ親交ヲ貿易ノ發展ニ依  
リ増進セントスル日本ヲ落膽セシムルコト著シキモノアリト切出シ  
タル處外相ハ本件ノ真相ハ過般來伯銀及米國輸出入銀行間ニ於テ米  
國ハ機械「ガソリン」等伯國ノ最必要物資一千二百萬弗ノ米國製品  
ヲ伯國側ニ優先的ニ供給スルニ對シ伯國側ハ之カ對價トシテ特定  
ノ伯國物資ヲ對米輸出スル協定成立シ今後ハ「ダイヤモンド」其ノ  
他ヲ伯銀輸出入局カ其ノ目的ノ爲購入セントスル狀態ナリ





右協定ハ伯銀及米國輸出入銀行間ノ協定ニシテ外務省及本大臣ハ嘗テ相談ヲモ受ケサルモノヘ大藏大臣ノミ承諾ニシテ自分トシテ不満ナル次第ナリ然ルニ義ニ獨逸大使ヨリ本件ニ關シテ質問書ノ提出ヲ受ケ今又貴大使ノ來訪ヲ受ケ事外交問題トナリタルヲ以テ自分トシテハ國際關係上之レ等協定カ妥當ナリヤ否ヤニ付既ニ法律専門員ニ研究セシメツツアリ其ノ結果ヲ待ツテ大統領其ノ他共來週相談シタル上貴大使ノ來訪ヲ請フヘキニ付夫レ迄御待チヲ願ヒタシト云ヘリ依テ本使ハ御訓電ノ趣旨ヲ説明シタル後現狀恢復ニ盡力方ヲ求メタルニ外相ハ自分モ日伯ノ經濟關係ヲ勿論尊重スルモノナレハ努力スヘシト答ヘタリ





松岡外務大臣宛

在伯國石射大使發電報寫

六月十九日着

(イ)現在ニ於ケル註文殘高(最近入手セル分ヲ含ム信用狀殘高)水晶七十二萬圓、「ダイヤモンド」百二十萬圓、滿俺鑽四萬六千圓ナリ(此ノ外本年二月註文ヲ受ケタル「ダイヤモンド」十四萬弗ハ一日通レノ十二日附ニテ必要書類カ完備シ居タル事情ヲ諒トシテ伯刺西爾銀行當局ヨリ十六日好意的ニ輸出許可アリタリ)伯刺西爾銀行、大藏大臣等ニ少クトモ既定註文殘高ニ對シ輸出許可ヲ與フル様民間側ヲシテ運動セシメ居レリ成否豫測シ得サルモ不取敢報告ス

(ロ)前記東山農事ノ「ダイヤモンド」ニ關シ口添ヘノ爲勝山商務書記官カ伯銀爲替局長往訪ノ際局長ハ米國側ヨリ機械、鐵、「ガソリン」ノ供給ヲ受クル交換條件トシテ輸出禁止セルモノナリト語りタル由



秘

(4) 北米ハ尙資金一億三千萬弗ヲ以テ棉花ヲモ買占セントスル交渉ヲ  
進メ居ル由ノ情報アリ風一右實現セハ本邦ヘノ輸入ハ殆ト皆無ト  
ナルノミナラス我カ對伯輸出モ爲替決算資金ノ關係上困致トナル  
惧レアルニ付斯ル事態ヲ防止スル爲我方ヨリ今ノ中ニ一定量ノ棉  
花買付保證ヲ提議シ先方ヨリ輸出保證ヲ取付タルコトトシテハ如  
何ト思考ス之ニ對スル意嚮御同電相煩度



七月八日

第一通

通

高

秘

閣

通五秘合第二四二五號

昭和十六年六月二十三日

和

三二五〇

昭和十六年六月二十四日 午前六時

別紙添附

外務次官

陸軍次官 殿

中村

軍需物資獲得ニ關スル件

本件ニ關シ今般在亞富井大使ヨリ別紙寫ノ通り電報アリタルニ付  
右茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍省、海軍省、大藏省、遞信省、企畫院、貿易

局

神谷

外務省



寫

松岡外務大臣宛在亞富井大使發電報寫十八日着

累次報告ノ通り軍需物資獲得ニ關シ我方希望買付ハ益々困難トナ  
リ居ル實情ニ付多少ノ犠牲ヲ忍ビ最後ノ切札トシ亞國ノ熱望シ居  
ル船舶ヲ提供シ之ト代償的ニ右物資例ヘバ鉛鑛、亞鉛鑛等其ノ他  
我方ニ於テ運搬ノ見込着ク時ハ屑鐵等モ獲得方亞國政府ヲシテ幹  
旋保障セシムル事效果的ナルヘシト認メラル就テハ右我方ニ於テ  
異存無クハ亞國政府ノ意嚮ヲ打診致度何分ノ儀至急御回電請フ



秘

閱

陸

三五〇

通五祕合第二五四六號

昭和十六年六月三十日



陸軍次官殿

中南米ニ於ケル軍需物資獲得ニ關スル件

本件ニ關シ本月二十三日附通五祕合第二四二五號往信ヲ以テ申進置タル處今般更ニ在亞富井大使ヨリ別紙寫ノ通り電報アリタルニ付右茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍省、海軍省、大藏省、遞信省、企畫院、貿易局

外務次官



外務省



寫

松岡外務大臣宛在亞富井大使發電報寫(二十六日着)

當國產軍需資材ト本邦船舶トノ「バーター」ニ關シ最近特ニ國際情勢急變ヲ告ケ米國ノ露骨ナル對南米政策殊ニ所要物資獲得ニ重壓ヲ加ヘ來タリタルカ米ノ策動激シキ今日單ナル普通手段ニテハ我方ノ目的ヲ達シ難シト認メラルルニ付テハ英斷ヲ以テ此ノ際我方船舶ヲ提供シ右ヲ切札トシテ先方ト我方所要物資獲得方ニ付交渉スル様致度シ、右ハ併セテ又亞國側ノ輸出入制限措置ニ付テモ我方ニ有利ナル様利用シ又清算協定ノ成立ヲ促進シ得ヘシト認メラルルニ付此ノ點亦御含ミノ上機ヲ逸セサル内ニ至急何分ノ儀御回電相成度シ

(了)

外務省



第一六八號

八月八日

中

中

中

中

軍務

閱

拾年

陸軍省 第一六八號

通四普通合第二五二一號

昭和十六年六月二十八日

陸軍次官殿

「ソ」聯邦ニ於ケル「タイヤ」及「ゴム」  
生産狀況調査報告ニ關スル件

本件ニ關シ今般在「ケー」ニヒスベルグ「杉原總領事代理ヨリ別紙  
寫ノ通り報告ノ次第有リタルニ付テハ御参考迄右茲ニ送付ス  
本信送付先 陸軍、海軍、商工、拓務、農林、遞信、  
鐵道各次官、大藏省爲替局長、貿易局長官

企畫院第五部長

昭和十六年七月一日

別添附

外務次官

外務省 陸軍省

104

陸軍省 16.7.2 1022 軍務課

外務省



昭和十六年五月二十日

在「ケイニヒスベルグ」  
總領事代理 杉原千畝

外務大臣 松岡洋右 殿

蘇聯邦ニ於ケル「ダイヤ」護謨ノ生産狀況ニ  
關スル件

當地蘇聯經濟研究機關タル東歐社獨逸文機關誌「オストオイローパ  
マルクト」最近號所載ノ獨人「アルトゥル、シユミツト」論文「蘇  
聯邦ニ於ケル「ダイヤ」護謨ノ生産狀況」要旨別添ノ通報告ス



「タイヤ」護謨ノ生産狀況（「アルトゥル、  
シュミット」論文）

蘇聯邦護謨工業ハ一九二八年迄ハ「タイヤ」ヲ自給シ得ス之ヲ總テ  
外國ヨリ輸入シタルカー一九二八―二九年初メテ護謨「オーパーシユ  
ーズ」製造ニ着手セリ之カ原料トシテノ生産護謨輸入額ハ一九三一年  
ニハ一九三〇年ニ比シ八五、四％増加シ一九三四年ニハ四八、一〇  
〇噸ニ達セリ

一方蘇聯邦政府ハ一九三一年ニ至リ右輸入増加阻止ノ爲對策ヲ講ス  
ヘキ必要ヲ認メ「レベデフ」教授ノ一九二八年發明ニ係ル合成「ゴ  
ム」製造ヲ企テ「レーニングラード」試験所ニ於テ試験ノ結果有望  
ナルコト確メラレタルヲ以テ一九三一年「ヤロスラヴ」―「ヴオロネ  
ジ」並「タンポフ」ニ當該工場ヲ建設セリ以上ノ中「ヤロスラヴ」  
工場ハ全生産額ノ三分ノ一ヲ生産シツツアリ然シ國防軍機械化ノ時  
代的要求益々大ナルニ伴ヒ第三次五ヶ年計畫ニ於テハ更ニ多數ノ此



種工場ノ必要生シ依テ逐次増設セラルル筈ナリ（尙「リガ」ノ「ヴ  
アロニス」工場モ合成「ゴム」製造ニ従事シツツアリ）斯クテ「ヤ  
ロスラヴ」ノ「ゴム」及「アスベスト」綜合企業タル「ギガント」  
工場ノ如キモ一九三九年竣立スル豫定ナリシカ工事進捗セス漸ク一  
九四二年開設ノ見込ナリ右「ギガント」工場ノ年生産能力ハ自動車  
「タイヤ」四、三百萬、自動自轉車、飛行機及自轉車「タイヤ」三  
百萬ナリ

前記以外ノ工場中重要ナルハ「レーニングラード」ノ「クラリスヌ  
イ、トレウゴリニク」（「タイヤ」百萬）、「モスコ」ノ試験工  
場、「クラリスヌイ、ボカテイリ」、「カウチューク」、「キエフ」  
ノ「クラリスヌイ、レジンシチツク」竝「カリーニン」ノ「ゴム」  
底工場ナリ然シ此等工場ヲ以テシテモ尙増加一方ノ「タイヤ」需要  
ヲ充シ得サルニ鑑ミ一九三九年五月十日第十八回黨大會ハ更ニ十四  
個ノ「タイヤ」製造工場竝七個ノ厚布工場（以上ハ在來ノ工場ニ比







一九三八年

三八〇〇〇〇〇

一九三九年（計畫）

四三〇〇〇〇〇

自動車製造ハ一九三二年ノ二三、九〇〇台ヨリ一九三七年二〇〇、  
 四〇〇台ニ増加シタルニ對シ自動車「タイヤ」製造ハ四五四、〇〇  
 〇個ヨリ三、〇〇〇、〇〇〇ニ増加セル處其品質良好ナラス這ハ製  
 造課程ニ於ケル最小限度係數ニ困難アリタルニ依ル



「レベデフ」教授ノ合成「ゴム」製造法ハ酒精ノ原價高ノ爲採算採  
レス（合成「ゴム」一噸ニ付天然「ゴム」ノ三十倍高）依テ一九三  
九年別個ノ接觸劑ヲ用ヒ且技術方法ニ改善ヲ加ヘ酒精三〇、九〇〇  
噸ヲ節約シ得タルニ鑑ミ爾後米國ニ於テハ既ニ普及サレ居ル「ソヴ  
フレン」法ヲ採ルコトトナリ「エリヴァニ」ニ右方法ニ依ル工場ヲ  
新設（一九三九年竣工ノ豫定）セリ尙同工場用發電ノ爲ニ「ハーセヴ  
アンスコエ」湖（山岳地）ヲ利用シ貯水池ヲ設クルコトトナリ又同  
工場ハ同地方ニ於ケル「ゴム」工業ト直接關聯セシムルコトトナレ  
リ  
最後ニ生「ゴム」ハ更ニ石油瓦斯竝石油工業廢物ヨリモ製出シ得ル  
ニ鑑ミ「バクー」近クノ「スンガイト」ニ右利用法ニ依ル工場ヲ建  
設セリ  
蘇聯ノ「ゴム」工業ニ於ケル合成「ゴム」ノ利用ハ漸次發達シ例ハ  
一九三三年「ヤロストラヴ」ニ於テハ自動車「タイヤ」製造ニ一、



一%ノ合成「ゴム」ヲ、又一九三四年ニハ二二、三%、一九三五年  
 ニハ四七、七%、一九三六年ニハ五六%ノ合成「ゴム」ヲ混用セリ  
 從テ一九三一年以來生「ゴム」ノ輸入額ハ次表ノ通減少セリ  
 (單位 千噸)

年次	輸入額	生産額
一九一三	一四八	一
一九二七—二八	一四七	一
一九二八—二九	一三八	一
一九三〇	一六四	一
一九三一	二八二	四〇一
一九三二	二九七	四〇二
一九三三	三三三	三〇〇
一九三四	四八一	一〇一



一九三五	三八三	二五六〇〇
一九三六	三六五	四四二〇〇
一九三七	三〇四	四六〇〇〇
一九三八	二六二	五三〇〇〇

生「ゴム」ヲ全然人造「ゴム」ニ代位セシムルコトハ混用限度七割トナリ居ル爲不可能ナルコト云フ迄モナシ

一方蘇聯政府ハ「ゴム」樹植培ヲ試ムヘク既ニ一九二六年苗樹ヲ輸入シ南部「アゼルバイジャン」竝「トルクメン」ニ移植スルト共ニ順調ニ行ケハ一樹ニテ「ゴム」十五瓦ヲ供給シ得ヘキ見込ノ下ニ「カウチユクコノス」ナル「トラスト」ヲ特設シ次テ第三次五年計畫ニ於テハ約二萬「ヘクター」植樹スルコトトナレリ

其ノ外一九二九年乃至一九三三年南亞特有ノ「コククサギス」樹ハ酷寒竝零下四十度ノ低氣温ニ耐ヘ其根ハ一〇%以内ノ生「ゴム」ヲ



含ムノ試植ヲ行ヒタル處成績良好ナリシニ鑑ミ一九三九年約二萬六千「ヘクタール」ヲ植付ケタルカ更ニ一九四〇年ニ八十萬「ヘクタール」、一九四二年ニ八十五萬「ヘクタール」植付ノ計畫ナリ尙「ヘクタール」ヨリノ收穫額二百乃至二百五十疋（即チ一九三九年ニ付約六〇〇、〇〇〇額ノ生「ゴム」ニ相當ス）ヲ供給シ蘇聯全國何處ニ於テモ植付ニ適スルモノナリ

尙政府ハ古「ゴム」ノ再生ヲ企テ第三次五年計畫ニ於テ十五個ノ「ゴム」工場ニ附屬シテ再生部ヲ増設スル外獨立ノ再生「ゴム」工場ヲ二個建設スルコトトナリスクテ上記述ノ諸施設及措置ニシテ計畫通り進捗セハ最早蘇聯ノ「タイヤ」製造工業ハ殆ント外國原料ニ依存スルコトナク自國原料ノミニテ活動シ得ルコトトナルヘシ



第一七號

七月九日

大日本帝國政府

陸軍次官殿

航空局陸軍委任事務官經由  
空民第一〇四號

昭和十六年七月三十日

航空局長官

日支通信連絡飛行ニ關スル件  
讀賣新聞社ニ對シ右件別紙要領ニ依リ實施方左記條件ノ下ニ許可  
セラレタルニ付御了知ノ上可然御取計相成度

記

陸軍省  
昭和十六年七月二十日  
前大臣官

陸軍省  
16.7.4  
交通課

陸軍省  
16.7.2  
1031  
軍務課

陸軍省  
16.7.3  
689  
防衛課

航空本部  
16.7.-5  
受付



# 大日本帝國政府

## 一、日 支 飛 行

- (一) 航空路ハ大日本航空株式會社定期航空路ニ依ルヘシ
- (二) 支那各地ノ飛行場發着ニ際シテハ其ノ都度豫メ所在陸海軍指揮官ニ届出テ其ノ指示ヲ受クヘシ
- (三) 帝國海軍艦船ニ遭遇シタル場合ハ直ニ之ヨリ離隔スル如ク航行シ支障ナキ限リ高度ヲ五〇〇米以下ニ下ケ飛行スヘシ



第一八八號

保存期限 十年  
決裁指定  
執行指定

政務次官 參與官 回附 決裁 前連帶 後課名		政務 次官		大臣		主務局長		提出 昭和六年一月十日		受領 昭和六年一月十日		結了 昭和 年 月 日	
參與官 回覽 課名		政務 次官		大臣		主務局長		提出 昭和六年一月十日		受領 昭和六年一月十日		結了 昭和 年 月 日	
決行(決裁)後 回覽 課名		政務 次官		大臣		主務局長		提出 昭和六年一月十日		受領 昭和六年一月十日		結了 昭和 年 月 日	
起元應(課)名		政務 次官		大臣		主務局長		提出 昭和六年一月十日		受領 昭和六年一月十日		結了 昭和 年 月 日	
海 軍 省		政務 次官		大臣		主務局長		提出 昭和六年一月十日		受領 昭和六年一月十日		結了 昭和 年 月 日	
陸 軍		政務 次官		大臣		主務局長		提出 昭和六年一月十日		受領 昭和六年一月十日		結了 昭和 年 月 日	
書記官		政務 次官		大臣		主務局長		提出 昭和六年一月十日		受領 昭和六年一月十日		結了 昭和 年 月 日	
審案 筆記者		政務 次官		大臣		主務局長		提出 昭和六年一月十日		受領 昭和六年一月十日		結了 昭和 年 月 日	

航空機用「ラインメタル」七耗九機銃並同彈藥包製造用圖面讓渡ニ關スル件

壹壹第101號

拾年待

總務部長  
 主務部長  
 高級 副官  
 主務課長  
 官房御用係  
 計  
 副官  
 主務員

秋山

原

谷口

藤本

松本

山田

田中

鈴木

司

田

山

田

中

山

田

中

山

田

中

山



陸軍省

次官ヨリ海軍次官へ

回答

昭和十六年一月十一日附官房機密第二二九號首題照會ノ件支障無之  
回答ス

追而該圖面送付ニ關シ手配中ニ付承知相成度申添フ

陸普第六三三號昭和拾六年貳月壹日

陸軍省 第一八〇



陸軍



官房機密第二二九號

昭和十六年一月十一日

陸軍次官 阿南 惟幾 殿  
 海軍次官 豊田 貞次郎



海軍

(終)



第八課

秘

至急

別紙添附  
陸軍省兵器局 經由

陸軍省 昭和十六年五月二十三日  
兵器局 經由第四三七番

陸兵總秘第三四七八號

昭和十六年五月二十三日

航空用ラインメタル機關銃及同實包ニ關スル件照會

陸軍兵器本部

陸軍省御中

陸軍兵器本部

陸

陸空本付  
5.25  
陸

首題ノ件ニ關シ別紙第一（艦本機密第一號ノ三七〇八號）並ニ別紙  
第二（艦本機密第一號ノ四二九八號）ノ通照會アリタルニ付別紙第  
一中ノ第一號ニ關シテハ讓渡差支ナキヤ尙第二號及第三號ニ關シ何  
分ノ指示相成度照會ス

日本標準規格 B—5

兵器局  
應之政  
黃部  
航空本  
第八課

姜受下平之見  
兵器局

航空本  
第八課



秘

寫

別紙中一

別紙添付

陸軍

艦本機密第一號ノ三七〇八號

昭和十六年四月二十四日

陸軍兵器本部總務部長殿

海軍艦政本部總務部長

航空機用「ラインメタル」機銃及同實包ニ關スル件照會

首題ノ件別紙一月十一日官房機密第二二九號照會及二月一日陸普第六三三號回答ニ關聯シ左記ノ通希望致候ニ付何分ノ御配慮ヲ得度

記

一 左ノモノニ對スル製作圖、製造方式圖、（ジグ、ゲージ、特殊工具、臼、杵類圖面ヲ含ム）及検査規格書送付願度  
（ハ）航空機用「ラインメタル」七耗九及七耗七機銃（旋回、固定共）



(四) 同 右 用各種實包

「附記」出來得レバ旋回機銃關係ヲ先ニ入手致度

ニ前號兵器試製用見本トシテ左ノモノ無償讓受ケ度

(イ) 七耗九用陸軍試製火藥約五毆

(ロ) 七耗九實包各種五〇〇發宛 (計一五〇〇發)

(ハ) 七耗七實包 五〇〇發

ニ左ニ依リ第一號兵器ノ製造作業見學許可サレ度

(イ) 見學場所及見學者

名古屋造兵廠

横須賀海軍工廠造兵部 海軍造兵中佐 横山常市

海軍艦政本部第一部 海軍造兵少佐 安並三男

横須賀海軍工廠造兵部 海軍技手 渡邊省三

海軍艦政本部第一部 海軍造兵大佐 野村元次

横須賀海軍工廠造兵部 海軍造兵少佐 皆川清

横須賀海軍工廠造兵部 海軍技師 藤田正久

東京第一造兵廠



(四) 見學期日及期間

五月一日ヨリ五月十日ニ至ル間ノ適當ナル二日間

(別紙二葉添)

(寫送付先 橫須賀海軍工廠總務部長)

(終)



寫

別紙

官房機密第二二九號

昭和十六年一月十一日

陸軍次官宛

次官

陸軍

航空機用「ラインメタル」七耗九機銃  
 及同彈藥包製造用圖面讓受ケ度件照會  
 海軍ニ於テ近ク首題兵器ノ試作及實驗ヲ行ヒ將來此ノ種兵器ノ多  
 量製産ヲ致度候處同兵器製造用圖面一揃讓渡相成度

(終)



別紙

陸軍

寫

陸普第六三三號

航空機用「ラインメタル」七耗九機銃並同彈藥  
包製造用圖面讓渡ニ關スル件回答

昭和十六年二月一日

陸軍次官 阿南惟幾

海軍次官 豊田貞次郎殿

昭和十六年一月十一日附官房機密第二二九號照會首題ノ件支障無  
之回答ス

追而該圖面送付ニ關シ手配中ニ付承知相成度申添フ



別紙ヤニ

陸軍

艦本機密第一號ノ四二九八

昭和十六年五月十四日

海軍艦政本部總務部長

陸軍兵器本部總務部長殿

航空機用「ラインメタル」機銃及同實包ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シ嚮ニ艦本機密第一號ノ三七〇八ヲ以テ照會致候處當該照會中ノ第二號及第三號ニ關シテハ五月十三日官房機密第四一五一號ヲ以テ海軍次官ヨリ陸軍次官宛別途照會手續致候ニ付自然消滅ノコトニ了承ヲ得度

追而當該照會第一號中ノ機銃關係圖面ニ對スル詳細希望ハ別紙ノ通ニ付何分ノ御配慮ヲ得度申添候

(別紙一通添)

(寫送付先 横須賀海軍工廠總務部長)

(終)



機 密

別紙

機銃製造用入手希望圖面目錄

- 一 「ラインメタル」七耗九旋回機銃
  - (イ) 製作圖（主要部品鍛造圖ノミ）
  - (ロ) 分業調書（關係又工檢圖面ヲ含ム）
- 總組立 A、B、C、D、E、F、及 G
- (ハ) 検査格例及検査法（案）
- (ニ) 部品名稱表
- (ホ) 材料對照表（「ラ」社ノモノト日本陸軍トノモノ）
- (ヘ) 材料豫算表
- (ト) 着色法説明書（簡易法、アルカリ法）
- (チ) 熱處理工程管理表
- ニ 「ラインメタル」七耗九固定機銃

陸 軍



前號ニ準ズ

三「ラインメタル」七耗七機銃

(1) 製作圖（銃身關係ノミ）

四 入手希望順序

- 第一次 一ノ(四)ノ〇、一ノ(三)・(二)
- 第二次 一ノ(1)、一ノ(四)（〇ヲ除ク）、一ノ(5)・(1)・(3)・(2)・(1)
- 第三次 一ノ(六)・(二)

(終)

陸軍



秘

陸軍省兵器部經由

陸兵總秘第三四七八號

航空用ライシメタル機頭銃及同實包ニ關スル件照會

昭和十六年五月二十三日

陸軍兵器本部

# 陸軍省御中

首題ノ件ニ關シ別紙第一（艦本機密第一號ノ三七〇八號）並ニ別紙  
 第二（艦本機密第一號ノ四二九八號）ノ通照會アリタルニ付別紙第  
 一中ノ第一號ニ關シテハ讓渡差支ナキヤ尙第二號及第三號ニ關シ何  
 分ノ指示相成度照會ス

陸軍







陸  
密

陸軍次官ヨリ海軍次官へ

回  
答

五月十三日官房機密第四一五一號照會ノ件支障無之回答ス

追而照會ノ兵器ノ讓渡及兵器製造所ノ見學ニ關シテハ陸軍兵器本部

ト射場ノ見學ニ關シテハ陸軍技術本部ト直接協議セシメラレ度申添  
フ

陸  
密

陸密第一八三一號

昭和拾六年六月廿八日

通  
牒

陸軍次官ヨリ陸軍兵器本部長へ

首題兵器別紙ノ通海軍ニ讓渡セラレ度通牒ス

追而本件ノ細部並兵器製造所ノ見學ニ關シテハ直接海軍ヨリ協議セ

奉  
答



陸軍

シムルニ付便宜與ヘラレ度申添フ

(関係書類写本付)

昭和拾六年六月廿八日

陸密第一八三一號

陸密

通牒

陸軍次官ヨリ陸軍技術本部長ヘ

首題兵器ニ關聯シ富津射場ノ見學ニ關シ五月十三日官房機密第四一

五一號ヲ以テ海軍ヨリ願出アリタルニ付便宜與ヘラレ度

追而見學ノ細部ニ關シテハ直接海軍ヨリ連絡セシムヘキニ付申添

フ



陸密第一八三一號

昭和拾六年六月廿八日





陸軍ヨリ海軍ニ譲渡スベキ兵器

兵器名稱	員數	摘要
七耗九用陸軍試製火藥	約五班	
七耗九實包各種	各五〇〇發	計一、五〇〇發
試製九二式普通實包	五〇〇發	

陸軍



取扱者印

官房機密第四一五一號

昭和十六年五月十三日

陸軍次官 木村 兵太郎 殿

海軍次官 澤本 頼雄

航空機用「ラインメタル」機銃及同實包ニ關スル件照會

首題ノ件、一月十一日官房機密第二二九號照會及二月一日陸普第六三三號回答ニ關聯シ左記ノ通希望致候ニ付何分ノ御配慮ヲ得度

記

一 首題兵器試製用見本トシテ左ノモノ製造委託手續ニ依リ讓受ケ度

(イ) 七耗九用陸軍試製火藥約五疋

(ロ) 七耗九實包各種五〇〇發宛 (計一、五〇〇發)

(ハ) 試製九二式普通實包五〇〇發

陸軍部 16.5.14 午後六時

航空本部 16.5.15 受付

陸軍部 16.5.15 受付

陸軍省 16.5.26 第五課 銃砲課

航空本部 16.6.7 受付

海軍

本件兵器部印關係ニ付貴課意見兼、度違取極々回答致シ改日申上

本件兵器部印關係ニ付貴課意見兼、度違取極々回答致シ改日申上  
銃砲課 馬中



一 首題兵器製造作業等左ニ依リ見學許可サレ度

名古屋造兵廠

横須賀海軍工廠造兵部

海軍造兵中佐

横山常市

海軍艦政本部第一部

海軍造兵少佐

安並三男

横須賀海軍工廠造兵部

海軍技手

渡邊省三

海軍艦政本部第一部

海軍造兵大佐

野村元次

東京第一造兵廠

横須賀海軍工廠造兵部

海軍造兵少佐

皆川清

横須賀海軍工廠造兵部

海軍技師

藤田正久

右見學期日五月中適當ナル一日間

海軍航空技術廠兵器部

海軍大佐

田中保郎

海軍航空本部技術部

海軍大佐

井上益三

海軍艦政本部第一部

海軍造兵大佐

野村元次

海軍艦政本部第一部

海軍中佐

大川邦之助

横須賀海軍工廠造兵部

海軍造兵中佐

横山常市

海軍航空本部技術部

海軍中佐

時永縫之助

海軍航空技術廠兵器部

海軍中佐

篠崎長帥

(口) 富津射場

海軍

(森市納)

最



橫須賀海軍工廠造兵部	海軍造兵少佐	皆川清
海軍艦政本部第一部	海軍造兵少佐	安並三男
海軍航空本部技術部	海軍造兵大尉	久保功
海軍航空技術廠兵器部	海軍造兵大尉	川北健三
橫須賀海軍工廠造兵部	海軍技師	藤田正久

右見學期日ラ式七耗七機銃實驗射擊當日一日

(終)



保存期限 十年 決裁指定 執行指定

大臣	事務局長		課長		局長		局長	局長	局長	局長
委員	部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長
次官	次官	次官	次官	次官	次官	次官	次官	次官	次官	次官
政務	政務	政務	政務	政務	政務	政務	政務	政務	政務	政務
參與官	參與官	參與官	參與官	參與官	參與官	參與官	參與官	參與官	參與官	參與官
書記官	書記官	書記官	書記官	書記官	書記官	書記官	書記官	書記官	書記官	書記官
審案者	審案者	審案者	審案者	審案者	審案者	審案者	審案者	審案者	審案者	審案者

航空機用「ラインメタル」七耗九機銃並同實包製造用圖面讓渡ニ關スル件

陸軍航空本部

航空機用「ラインメタル」七耗九機銃並同實包製造用圖面讓渡ニ關スル件

陸軍航空本部

陸軍

政務次官 回附 決裁 前 連帶 後 課名 決行(決裁)後 回覽 課名

航空機用「ラインメタル」七耗九機銃並同實包製造用圖面讓渡ニ關スル件

陸軍航空本部

陸軍



陸 普

省副官ヨリ兵器本部長へ

通 牒

首題ノ件認可<sup>セラレ</sup>タルニ付海軍ニ圖面讓渡方取計ヒ相成度

陸兵總務部第三四七八號<sup>陸兵總務部第三四七八號</sup>會別休養<sup>三三三三</sup>三項<sup>三三三三</sup>昭和<sup>昭和</sup>陸軍<sup>陸軍</sup>第一八三三號<sup>第一八三三號</sup>追而<sup>追而</sup>圖面讓渡<sup>圖面讓渡</sup>細部ニ關シテハ海軍當事者ヲシテ連絡セシムルニ付<sup>ニ付</sup>ニ依リ<sup>ニ依リ</sup>兼知セシメ<sup>兼知セシメ</sup>度<sup>度</sup>（關係寫添附）<sup>（關係寫添附）</sup>奉知セラレ<sup>奉知セラレ</sup>度<sup>度</sup>

陸普第五一七五號

昭和拾六年七月八日

陸軍總務部「三三三三」三項式對海軍圖面讓渡申請圖面讓渡ニ關スル件

陸軍總務部

陸 軍



第一九一號

保存期限

永久

決裁指定

決行指定

政務次官

回附

決裁

前連帶

後課名

決行(決裁)後  
回覽課名

起元應(課)名

航空局省

陸軍

受領番號

老和三五五年  
航空兵器貸渡ノ件

航空兵器貸渡ノ件

大臣

委

次官

委

次官

高級副官

秋

書記官

主務副官

副官

審案

本部長

總務部長

主務部長

庶務課長

主務課長

主務部員

副官

審案

主務局課

受領番號

昭和

年

月

日

連帶

局長

主務局長

副官

主務課長

副官

主務部員

副官

審案

審案

審案

審案

審案

審案

大臣官房

受領番號

昭和

年

月

日

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

決行後

航本發第四八三號

換年倍

秋

原

秋

秋

秋

秋

秋

秋



陸普

陸軍次官ヨリ航空局長官へ

通牒

六月二十一日附空補第二四六號照会ニ係ハル首題ノ件別紙ノ通陸軍航空本部長ヲシテ貸渡方取計ハシメラルルニ付承知相成友

追テ本件所要經費並ニ保管ノ責ハ凡テ借用者側ノ負擔トシ現品授受ノ細部ニ関シテハ直接協議セラレ友  
陸普第五一九一號  
昭和拾六年七月八日  
申添フ

陸普

航空本部長へ

達

別紙兵器ヲ航空局ニ貸渡方取計フヘシ



陸軍

但シ本件所要經費並ニ保管ノ責ハ凡テ借用者側  
ノ負擔トシ現品授受ノ細部ニ関シテハ直接協議ス  
ルモノトス

陸普第五一九一號

昭和拾六年七月八日





別紙

品目	員數	貸渡期間	備要
偵察機用關聯工具 〔特殊器具ヲ除ク〕	一組		
發動機試驗臺	一		
工場用プロペラ工具	一		
鉄着用具	一		
發電機及點火栓試驗器	一	昭和十七年 三月三十一日迄	
野外用計測器試驗器	一組		
油量計試驗器（壓力式）	一		
プロペラ合試驗器	一		
回轉計試驗器	一		九月納入ノモノ貸渡
氣壓計試驗器	一		
シヤイロ計試驗器	一		八月納入ノモノ貸渡

官房控陸軍



充 電 器 具	移 動 起 重 機 一 小 一	空 氣 壓 縮 機 一 高 壓 一	研 磨 機	輪 削 機	ブ ロ ベ ラ 定 盤
—	—	—	—	—	—
			昭和十七年 三月三十一日迄		
					八月納入 （長谷川）

備考

昭和十六年六月二十六日空補第二四六號ニ對スル分トス

東京電機

東京電機





大 本 國 政 府

有 添 付

航空局陸軍兼任事務官經由

空補第二四六號

陸軍省 第一三三三五

昭和十六年六月二十一日

航空局長官



陸 軍 大 臣 殿

修理工場用備付器材借用ニ關スル件

右ニ關シ大日本航空株式會社總裁中川健藏ヨリ別紙寫ノ通願出有之  
候ニ付テハ貴省御保管ニ係ル該器材ヲ御支障無之範圍ニ於テ當局ニ  
借用ノ上同社ニ使用セシムルコト、致度ニ付何分ノ御配慮相煩度及  
依頼候也



寫

大日本帝國政府

日航補第二三一號

昭和十六年六月十一日

東京市麴町區有樂町一丁目一番地一

大日本航空株式會社

總裁 中川健藏

航空局長官 手島 榮 殿

盤谷修理工場用備付器材貸渡ノ件御願  
當社盤谷修理工場備付用トシテ左記器材陸軍ヨリ貸渡方御詮議ヲ  
得度此段御願ニ及ビ候也



# 大 日 本 帝 國 政 府

品 目	員	數	貸渡希望時期	摘 要
100式輸送機用關聯工具 發動機試驗台 工場用プロペラ工具 鋸着用具 發電機及點火栓試驗器 野外用計測器試驗器 油量計試驗器(壓力式) プロペラ鈎合試驗器 回轉計試驗器 氣壓計試驗器 ジヤイロ計試驗器 プロペラ定盤機 輪削磨機 空氣壓縮機(高壓) 移動起重機(小) 充電器具	—	— 組	七月末迄ニ以下同ジ	

盤谷修理工場備付用器材



保存期限 十年  
 決裁指定 局長 委任  
 決行指定

第 二 號

大臣 委	局長 主務	次官 委	政務 次官	受領 番號	件名
	局長 主務	高級 副官	參與官	壹第 三四七四號	蹄釘取得 轉旋二關スル件
	局長 主務	主務 副官	書記官	起元廳(課)名	
	局長 主務	主務 課員	審案 筆記者	農林省 馬政司	
房官 大臣	課局 務主	帶連	(裁決)行決 覽回後	昭 和 年 七 月 七 日	
了結 領受	出提 領受	帶連	長局	昭 和 年 七 月 十 日	
昭 和 年 七 月 十 日	昭 和 年 七 月 七 日	長局	長課	昭 和 年 七 月 七 日	
	昭 和 年 七 月 七 日	長課	軍事 主計	昭 和 年 七 月 七 日	

政務大官 同付  
 參與官 同付  
 決裁前後連帶 課名

決行(決裁)後 回覽課名

拾年保





副官ヨリ陸軍獸醫資材本廠長へ通牒

陸普

農林省馬政局ヨリ蹄釘ノ購買方依頼アリタルニ付別紙ノ通  
貴廠ニ於テ取得斡旋方取計ハレ度依命通牒ス

陸普第五一六七號

昭和拾六年七月八日

同件次官ヨリ馬政局長官へ通牒

六月三日附一大馬第一三九八六號ニ依ル日本裝蹄師會所要蹄  
釘ニ關シテハ別紙ノ通陸軍獸醫資材本廠ニ於テ取得斡旋致  
スヘキニ付承知相成度候也

陸普第五一六七號

昭和拾六年七月八日



別紙

### 蹄釘取得斡旋數量表

發送先	品目	數量 <small>(本)</small>	調辦並發送擔任部隊	摘要
農林省馬政局	蹄釘	五〇〇〇〇〇	陸軍獸醫資材本廠	

備

一、取得ハ購買斡旋又ハ陸軍獸醫資材本廠保管品ノ拂下ニ依ルモノトシ  
 其ノ品質ハ中等品以下トス

二、所要物資ハ農林省馬政局ノ負擔トシ所要經費ハ陸軍獸醫資材本  
 廠長ノ指定スル箇所ニ支拂フモノトス

三、單價ハ品質程度ニ應ジ陸軍獸醫資材本廠長ニ於テ之ヲ定ムルモノトス

四、授受ノ細部ニ付テハ農林省馬政局、陸軍獸醫資材本廠協議ノ上  
 實施スルモノトス

考





湧井

陸軍省 領省 第一三四七四號

一六馬第一三九八六號

昭和十六年七月三日



馬政局長官

陸軍次官 木村 兵太郎 殿



蹄釘拂下又ハ購買斡旋ニ關スル件

今般日本裝蹄師會長ヨリ首題ノ件ニ關シ別紙ノ申請書提出相成候處  
從來ヨリ民需用蹄釘ノ取得ニ關シテハ極力努力シアリシ處國際情勢  
ノ急變ニ伴ヒ今後ノ輸入全ク困難ナルト國內在庫數量亦減少シ軍用  
保護馬ノ鍛鍊ニモ支障ヲ來ス虞有之候ニ付テハ本局ニ於テモ之ガ應  
急措置トシテ手打蹄釘ノ獎勵竝之ガ資材ノ獲得等種々配慮中ニ有之



候條右事情御了承ノ上不良品ノ拂下又ハ軍管理工場ヨリノ購買斡旋  
方特ニ御配意相成度此段及依頼候也

追而購買斡旋ニ要スル資材ハ農林省ニ於テ負擔可致尙差當リ拂下  
希望數量及民需用所要數量ハ左記ノ通ニ付申添候

記

一、差當リ拂下希望數量

五〇〇〇、〇〇〇本

二、民需用蹄釘所要數量

(朝鮮、臺灣、樺太ヲ除ク)

一ヶ月

約

一、六八〇、〇〇〇本

年

約

一四〇、一四〇、〇〇〇本

(森納)



日蹄發第二五四號

昭和十六年六月三十日

日本裝蹄師會長 渡邊 滿太郎



日本裝蹄師會

陸軍大臣 東條 英機 殿

蹄釘ニ關スル件申請

從來民需用蹄釘ハ一ニ輸入品ニ依存シ來リタルトコロ近時國際情勢ノ窘迫ニ伴ヒ之カ入手殆ト不可能ノ狀態ニ相成地方馬ハ勿論軍用保護馬ノ裝蹄ニモ一大支障ヲ招來セントスル情勢ニアリテ馬匹國防資源ノ涵養上寒心ニ堪ヘサルモノ有之候ニ付本會ハ之カ應急對策トシテ不取敢手製蹄釘ノ製作講習ヲ全國各地ニ於テ實施中ニ候得共手打蹄釘ノ製作ハ能率低ク自然護蹄ノ万全ヲ期シ難キノミナラス裝蹄料金ノ昂騰ヲ招來スル虞有之候ニ付テハ右事情御諒察ノ上之ヲ緩和スル爲軍保管蹄釘ノ丕良品ノ拂下其ノ他ニ關シ特別ノ御詮議相願度此段及申請候也











陸普 副官ヨリ教學局長官へ通牒  
 七月二日附報國隊辛巳第六〇號ニ係ル首題ノ件認可セラレタルニ  
 付依命通牒ス

陸普第五一六二號 昭和拾六年七月八日

陸普 副官ヨリ陸軍兵器本部次長へ通牒

興亞學生勤勞報國隊北支派遣隊及ヒ滿洲一般隊ノ内地  
 準備訓練用トシテ左記ノ通教學局へ貸與方取計ハレ度  
 依命通牒ス

陸普第五一六二號 昭和拾六年七月八日

品	目	頁數	期	間
円	是	一五〇	自昭和十六年七月十五日	
十	字	五〇	至今	年七月二十二日

左記





陸軍省 領 第三〇八三

報國隊辛巳第六〇號

昭和十六年七月二日

教 學 局 指 導 部

陸 軍 省 兵 務 局 長 殿

作業器材借用方依頼ニ關スル件

興亞學生勤勞報國隊北支派遣隊及ビ滿洲一般隊ノ内地準備訓練ニ使用  
致シ度ニ付左記ニヨリ作業器材貸與相成度此段及御依頼

記

一、器材名及員數

(1) 圓 匙

一五〇



教 學 局



(四) 十字 鋤

五〇

二 借用期間

自昭和十六年七月十五日

至全 年 全月二十二日

三 使用地

千葉縣下志津演習場栗山廠舎



保存期限

十年

決裁指定

局長委任

決行指定



二二

政務次官回付  
決裁前後一連帶  
課名



決行(決裁)後  
回覽課

16.7.1

監査課



受領番號 壹第一五三八號

起元廳(課)名

文部省

件名

獸醫材料購入斡旋ニ關スル件

大臣委

次官委

政務次官

參與官

書記官

審案  
筆記者

主務局長

主務課長

主務副官  
官房御用掛  
主務課員

高級副官

主務局長

受領  
昭和十一年七月七日

提出  
昭和十一年七月七日

受領  
昭和十一年七月七日

了結  
昭和十一年七月七日

監査  
車

軍事  
備

主計  
監査

長局

長課

長課

長課

長課

長課

長課



副官ヨリ陸軍獸醫資材本廠長へ通牒

陸善

文部省ヨリ獸醫材料ノ購買方依頼アリタルニ付別紙ノ通貴廠ニ於テ購入斡旋方取計ハレ度依命通牒ス

陸普第五一六六號

昭和拾六年七月八日

同伴次官ヨリ文部次官へ通牒

四月五日附集會九號ニ依ル教育用獸醫材料保管轉換ニ關シテハ別紙ノ通陸軍獸醫資材本廠ニ於テ購入斡旋致スヘキニ付承知相成度候也

陸普第五一六六號

昭和拾六年七月八日





別紙

獸醫材料購入幹旋數量表

品目	冷鐵	熱鐵	鐵尾	荒目平	荒目半丸	裝蹄	剪
	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	鉗	鉗
單位	箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇
數量	三	一三	八	五	三	一〇	一〇
摘要							
品目	蹄	蹄	修理	半圓	中目平	中目半丸	鋸
單位	箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇
數量	二〇	一〇	五	三	五	五	一
摘要							

考 備

一 取得ハ購買幹旋ニ依ルモノトス

二 所要經費ハ文部省ノ負擔トシ 單價ハ陸軍獸醫資材本廠長之ヲ定ムルモノトス

三 授受ノ細部ニ付テハ文部省、陸軍獸醫資材本廠協議ノ上實施スルモノトス



大日本帝國政府

集會九號

昭和十六年四月五日

軍令第一五三八號

文部

陸軍次官殿

今般盛岡、東京、宮崎各高等農林學校及鳥取高等農業學校長ヨリ同校  
獸醫學科ニ於テ所要ノ教材中別記品目ノモノ入手困難ナル爲貴省所屬  
ノ物品ヲ保管轉換相受度旨願出有之右ハ客年十一月二日付陸普第七七  
七〇號御通牒ノ趣旨モ有之ニ付可然御配慮相煩度此段御依頼ス  
追而本件ニ關シテハ貴省兵務局馬政課ト内交渉濟ニ有之候

有價品交換ノ所定

別紙	八書課三保管
馬政課	印蓋捺主

昭和十六年四月五日  
午後六時  
陸軍省  
文部

陸軍省  
文部

昭和十六年四月五日  
馬政課

書類発送上ノ手違ヒ、  
御迷惑ヲ御懸ケ致レテ恐  
ニ存候、希望申上別紙ノ通  
付宜レク御取計願度候  
昭和十六年四月九日  
文部大臣官房會計課  
資材掛

文部省會計課資材掛







次官ヨリ文部次官へ通牒

陸 普

七月三日附帶歌會第四號ヲ以テ依頼ニ係ル首題ノ件旭川師團ヨリ  
五頭ヲ有償交付方取計ヒ置キタルニ付承知相成度

追而馬匹ノ授受時期並場所等ニ關シテハ直接旭川師團ヨリ當該  
學校へ連絡セシムヘキニ付承知相成度

陸普第五二〇二號

昭和拾六年七月九

同伴副官ヨリ旭川師團參謀長へ通牒

陸 支 密

貴師團除役馬中五頭ヲ學術研究用トシテ帶廣高等農林學校へ有償  
交付スルコトニ定メラレタルニ付依命通牒ス



陸軍

追而本馬匹ハ本年度前期補充ニ伴フ過剩馬(除役賣却)若クハ今  
後生スヘキ除役馬中ヨリ充當スルモノトシ之カ交付時期場所等ニ  
關シテハ貴師團ヨリ直接當該學校ニ對シ連絡相成度申添フ

陸支密第一九七二號

昭和拾六年七月九日







# 大日本帝國政府

帶獸會四號

昭和十六年七月三日

三〇六八

文部次



陸軍次官殿

今般帶廣高等獸醫學校長ヨリ貴省所屬ノ除役馬十頭無償ニテ保管轉  
換相受度旨願出有之同校ハ本年度新設ニ係ルモノニシテ生徒實習用  
資材トシテ特ニ緊要ノモノト存ゼラルルニ付可然御配慮相煩度此段  
御依頼ス

追而本件ニ關シテハ旭川師團司令部ト内交渉濟ニ有之候



保存期限

三年

決裁指定

局長委任

決行指定



二四

政務次官回付 決裁前後連帶  
參與官課名



決行(決裁)後  
回覽課名

受領番號  
壹第二二八九七號

起元廳(課)名  
航空局

件名  
第十期航空機操縦生志願者第一大身體検査ニ關スル件

大臣委

局長 主務	次官	政務 次官
局長 主務	高級 副官	參與官
主務課員	主務副官 官房御用計	書記官
		審 筆記

醫審第317號

昭和十六年六月六日

昭和十六年七月十日

昭和十六年十月十日

大官房  
了結  
昭和十六年十月十日  
(裁決)行決  
覽回後

主務局長  
連帶

主務課長

局長

長課



次官ヨリ航空局長官へ通牒案

首題ノ件ニ關シ六月二日附空乘第五五九號ヲ以テ依頼ノ趣了承別紙ノ通關係軍、師團參謀長及臨時東京第一陸軍病院長へ通牒シタルニ付承知相成度

陸普第五二六三號

昭和拾六年七月拾日

昭和十六年度航空機操縱生志願者第一次身體検査ニ關スル件

副官ヨリ留守近衛師團、第二師團、第五十一師團、第五十二師團、中部軍、

留守第三師團、留守第四師團、第十六師團、第五十四師團、西部軍、留守第

五師團、留守第六師團、第五十五師團、第五十六師團、北部軍參謀長及臨時

東京第一陸軍病院長へ通牒案







昭和十六年度航空機操縦生志願者第一次身體検査日割表

検査場所	検査月日	検査豫定人員
札幌陸軍病院	自八月十一日 至八月十二日	一〇〇名
青森	八月十二日	五〇名
盛岡	自八月十一日 至八月十二日	五〇名
仙臺第一	自八月十一日 至八月十二日	一五〇名
臨時東京第一	自八月十二日 至八月十四日	四〇〇名
東京第二	自八月十二日 至八月十四日	四〇〇名
水戸	八月十二日	五〇名
宇都宮	自八月十二日 至八月十三日	五〇名
高崎	自八月十二日 至八月十三日	一〇〇名
姫路	八月十二日	五〇名
岡山	自八月十二日 至八月十三日	三〇〇名
廣島	自八月十一日 至八月十二日	一〇〇名







備考

一、身體検査ハ陸軍航空勤務者第一次検査ニ準シ實施シ特ニ結核性疾患ノ排除ニ留意スルモノトス

二、疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常ニ因リ不合格ト爲スヘキ標準ハ概ネ陸軍身體検査規則附録第五ニ依ル但シ各眼ノ裸眼視力

一・〇未滿ノ者ハ不合格トス

三、検査人員ハ一日概ネ五十名トス

四、検査日割ハ日曜日、祭日ヲ除クモノトス

五、検査豫定人員ハ多少増減アルモノトス

六、志願者名簿ハ人員確定次第關係陸軍病院ニ送付ス

七、其ノ他細部ニ關シテハ航空局ヨリ直接關係陸軍病院ニ連絡ス

ルモノトス